

山梨大学看護学会誌の創刊を祝う

山梨大学看護学会初代会長 吉田 洋二

山梨医科大学看護学会は平成11年に設立され、毎年定期的に総会を開催し、着実な業績を残し発展してきました。今回、大学統合によって山梨大学看護学会と改称され、そしてこの機会に機関誌が発行されることになりましたことは、本会にとって画期的なことであり、心からお喜び致します。またここに至るまで本会の発展に努力してこられた会員諸兄姉に深く敬意を表します。とくに学会活動を盛り上げるための看護学科と附属病院看護部の協力は全国に誇りうるものと自負しています。今後も両者は切磋琢磨して、新医学部を牽引する大きな力になってください。

邦文学術誌は大きな岐路にさしかかっていることはご承知のとおりです。学会機関誌は学会の目的に応じて出版の様式が異なるのは当然ですが、保存や検索の利便性などの点から印刷物として出版するのが良いか、電子ジャーナルとして出すのが良いか、学会事務局でのご検討をお願いしたいところです。また、アカデミックな世界には世界的水準が求められる時代ですから、厳しい注文のように見えますが、学外専門職を入れたレフリー制度を持ち、専門学会からも評価される雑誌である必要があります。将来、本誌が学術誌として伸びていくためには、同人誌では限度があります。本学会および本誌の発展を切に望みますので、厳しさにチャレンジしてください。

さて、最近、医療の高度化は目ざましく、また医療の制度化、規格化が進む傾向にあります。医療は患者個人に施されるものですから、規格化とは相

容れない面もあります。また患者それぞれが違った生活習慣、環境、価値観を持っています。規格化された医療を患者個人にフィットさせるためには、それぞれの患者にマッチするように、医療に工夫が凝らされ、修正が加えられなければなりません。

これからの看護には、規格化された医療を個々の患者に当てはめる、患者に適応させるためのコーディネータとしての役割が、大きく求められているように思います。また高齢化率が上昇するに従い、医療費が増加し、社会問題化しつつありますが、それに歯止めをかけるためにも、今まで以上に国民の健康を保持することが重要になってきています。これらのことを総合的に行えるのは看護師、保健師しかないと考えています。つまり医療総合職としての看護師、保健師の役割が大きく期待されています。

この新しい看護の役割を認識し、看護師、保健師、それらの教育者、研究者が一堂に会し、専門的情報を交換し、知識を深め、科学的に裏打ちされた技術を生み出し、看護や保健の質を高め、看護学の地位を向上させていくことは、人類の福祉を考えた時、極めて重要なことと言わざるをえません。新しい医療の思想の中における看護、看護学や保健、保健学の在り方を求めて、一層研鑽をしてください。